

週 報

こひつじ

第41巻 22号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

永遠のいのちによって生きる

その二 いのちを使う

永遠のいのちを持っている私たちが次にやるべきなのは、それを使ってみることだ。

福音書を読むと、イエスはしばしば弟子たちが自らやってみることを奨励された。

パンの奇蹟のときは、

「あなたがたで、あの人たちに何か食べる物を上げなさい」（マルコ六の三七）

と言われたし、夜通し働いて何一つとれなかったペテロには、もう一度、

「深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい」

と言われたとある。

ペテロははじめ抵抗したが、「でもおことばどおり、網をおろしてみましよう」

そう言っ、そのとおりにすると、たくさん魚がはいり、網は破れそうになったと書かれている。

イエスは、何事においてもやってみることを願われる。すると不思議なことが起こるのである。

内村鑑三に「余が非戦論者となりし由来」という文章がある。そのなかで非戦論者となった理由をいくつか挙げている。

第一は、聖書である。

イエスは、剣を取る者は剣で滅びる、と言われた。だから戦争は

絶対肯定できない。

第二は、自分の実体験である。

内村は、ある雑誌に徳富蘇峰を批判する記事を書いた。すると蘇峰の弟子たちは怒った。

そのひとり山路愛山は、新橋駅で内村を見かけると、走り寄っていきなり殴りかかった。内村は、まったく無抵抗主義をとって、彼に身をまかせ、殴られるだけ殴られた。それだけでなく、まったく恨みをもたなかった。

すると内村のその態度を見て、山路愛山のほうにも変化が起こった。その後、山路愛山とは親しく理解し合える仲となったという。

そのことについて内村はのちにこう言っている。

もしあのとき殴り返したり、恨みをもったりしていたら、多少は、そのとき愉快さを感じても、自分はその以上人間にはなっていなかっただろう。わかったことは、争うことは何の益ももたらさないということだ。

つまり彼は、右の頬を打たれたとき、左の頬を向けてみた。やってみると、意外とできた。それだ

けでなく、大きな心の平和を体験した。それを国と国とに適用して、絶対非戦論を説いたのである。

内村は、彼のうちあった永遠のいのちを実際に使ってみたのだと思う。

同様に私たちにも同じいのちがある。だからそれを使ってみる。

アメリカの大リーグにジャッキー・ロビンソンという選手がいた。

黒人最初の大リーガーだ。それまで白人以外にはだれも大リーグの選手になれなかったのだが、あ

るとき、ドジャースの会長ブランチ・リッキーが黒人選手の採用を決定する。猛烈な批判を浴びるとは覚悟の上だった。

そこで、リッキー会長はロビンソンに言った。

「君はこれまでだれもやったことのない困難な戦いを始めようとしている。その戦いに勝つには、偉大なプレーヤーであるばかりでなく、立派な紳士でもなければならぬ。仕返しをしない勇気を持つことが君には求められるのだ。わかるね」

そう言うやいなや、会長はロビ

ンソンの右の頬を殴った。
するとロビンソンは答えたそう
だ。

「頬はもう一つあります。ご存じ
ですか」

その後、彼の大リーグ生活が始
まるのだが、彼は、さまざまな嫌
がらせにも表情を変えず、紳士で
あることを守り通す。人びとはや
がて彼の驚くべきマナーに称賛を
送り始める。そしてプレーにおい
ても彼の活躍はめざましく、その
年の新人王に選ばれる。

これによってその後、多くの黒
人選手が大リーグに参入する道が
開かれたのである。その功績がた
たえられ、彼の背番号「25」はす
べての球団で永久欠番となる。さ
らに彼が大リーグにデビューした
四月一日は「ジャッキー・ロビン
ソン・デー」として、毎年すべ
てのチームの選手が「25」の背番
号でプレーする。

当時、だれも、こんなことが起
こるとは想像もしていなかっただ
ろう。しかし現実にはそうだった。
なぜか。

クリスチャンであったロビンソ

ンが、神からいただいた永遠のい
のちを、勇気をもって実生活に適
用したからである。(続)

今日の礼拝

○第一礼拝は午前一〇時から。
第二礼拝は午前一一時から。

○教会学校は午前一〇時から。
○説教は宮元隆博さん。

先週の礼拝

○司会は西岡潤也さん、説教は
米村牧師がイエスのパプテスマの
意義について語りました。

○ベイヤード家族が、証と音楽
の奉仕をしてくれました。久しぶ
りにチェロの演奏を楽しみました。

礼拝参加者

○礼拝参加者は、九三名(男三
三、女六〇)。それに子どもが一
名、合わせて一〇四名でした。

○サバンナさんのご両親がアメ
リカのネブラスカから来て、礼拝
に出席してくださいました。その

ほかの新来会者は、台湾からの宣
教師林さん、北條愛莉さん、寿美
子さん。

牧師の予定

台湾の台中市にある「G」教会か
ら、正式にお招きをいただき、一
月二二日に米村牧師夫妻は訪問
することになりました。TSMC
の工場が熊本で開所して以来、台
湾の教会からの訪問を受けるよう
になりました。とくに「G」教会の
方がたとえ交流が深められ、伝道
をともにやれることは感謝です。

小集会の報告

五月二二日(木) 石山美和さん
の友人で、四人の方がそれぞれ小
国、高森、熊本、南阿蘇から来ら
れ、聖書を学ぶ時を持ちました。
それぞれが以下のような感想を送
ってくださいました。

○米村さんや皆さんのお話に涙
が溢れてくる私でした。このよう
な機会を与えてくださり、ありが
とうございました。

○昨年(二〇二四年)度の伝道
及び会計報告書が受付にあります。
一部お取りください。

案内・消息

○一〇年前も、落ち込んでいた
時に米村さんの言葉で励まされた
ことをふと思い出しました。
○米村さんの文章はスラスラ入
ってくるのが不思議。少しずつだ
けど読めることが癒しです。すぐ
くありがたい時間でした。
また次回は六月二〇日の予定。

○オーストラリアの大学に留学
中の木下夫妻から便りがありまし
た。ようやく住まいが決まり、長
男の託磨くんは土曜日には日本人
の補習校に、そのほかは現地の学
校に通うそうです。新しい環境に
慣れるようにお祈りください。

牧師のメールアドレス

yonemura@ja2.so-net.ne.jp